

# 自己の技術研鑽と行政技術者の 信頼を高めるために

— 技術士（建設部門：土質及び基礎科目） —

## 1. 技術士受験の動機・経緯

担当時代に当時の上司が受験されていたこととOBの方が受験願書を職場に配布されていたものをもって興味を持ったのが始まりでした。その頃、コンサル業務の担当で技術士を取得されている方が的確な技術的判断を基に業務を行われていました。自分も対等で深い技術論を議論できるようになりたいと思ったのが最初の動機です。

また、いろいろな現場で苦労した体験を忘れないよう技術士の論文形式にその都度、文章としてまとめる勉強をしながら技術力向上に努めてきました。

技術士となることでコンサルタントや自治体の方と名刺交換した際に、相手の信頼を得やすくなるとともに自分自身も間違ったことを言えないという立場から今でも勉強し続けています。その結果、平成28年度の建設部門土質及び基礎の他、コンクリート、総合監理部門の河川砂防等を取得しました。

以下に技術士試験の概要と私の勉強を進めるうえでの留意点を紹介致します。

## 2. 受験申込書提出時の留意点

3年前まで5月のGW明けが受験申込書の提出期限でありましたが、2年前から連休前の4月末となっており提出時期を逃すことがある

ので注意する必要があります。

### （業務経歴票）

受験申込書は筆記試験合格後の口頭試験に使われるので、記述する経歴は単なる経歴書であってはなりません。例えば「〇〇川の河川改修」でなく「貴重種の〇〇魚に配慮した落差工の改修」など口頭試験の試験官がどのような特徴がある業務なのか解るように書く必要があります。

業務内容の詳細に該当する欄に記入する「○」を書き忘れることが多いことと、書く順序が現在の業務から書き始める間違いが多いので注意が必要です。

### （業務内容の詳細）

720字以内で業務内容を記述しなければなりません。留意点として、単なる報告書のような業務概要では口頭試験の時に厳しい質問になることが予想されます。

ポイントは記述した業務のどこが技術士として相応しいかを意識して書く必要があります。技術士として相応しいとは、業務の課題を整理しボトルネックとなる問題点を抽出し、その対策について経済性、施工性等多角的に評価して具体的な対策を提示する。その対策を行った結果をフォローアップし今後の設計等に役立てることができたと記述できれば口頭試験でも厳しい質問にはなりません。

提出前に一度は技術士の知人に添削してもら

うことが重要です。

### 3. 筆記試験の留意点

筆記試験は択一試験と論文試験があります。建設部門であれば国土交通白書と国土交通省のHP（各種審議会等）を参考に勉強することで択一、論文試験双方に役立ちます。

#### （択一試験）

択一試験は20問中から15問を選択し9問以上正解しないと論文の採点が行われない「足切り」となります。平成26年は受験者の約5割、平成27年も約4割が択一で足切りとなっています。

但し、平成30年度からは択一試験は廃止され記述式論文が復活する予定です。

#### （筆記試験）

筆記試験は問題Ⅱと問題Ⅲがあり問題Ⅱは原稿用紙1枚（600字）の解答を要する知識問題（4問中2問選択各1枚）と応用能力問題（2問中1問選択2枚）が試される。原稿用紙4枚を2時間以内に解答する必要があります。

問題Ⅱは原稿用紙1枚を30分で書かなければならないので速やかに選択する問題を抽出する必要があります。専門外の問題も1問選択する必要があります。

問題Ⅲは課題解決の能力を問われる問題と（2問中1問選択3枚）になっており2時間で原稿用紙3枚を書くことが求められます。

いずれの問題も過去5年以内の問題から出題傾向を分析し、前年度の災害や法改正のイベント等を踏まえ問題を予想しある程度、勉強の内容を絞ることが重要です。

問題の指定（問題番号の記入、解答枚数等）を指示通り記述しないと失格となります。その場合、択一問題も含め一切、採点されません。

### 4. 口頭試験の留意点

20分から30分以内で試験官が通常2名（1



国土交通省 九州地方整備局  
長崎河川国道事務所 道路管理第二課

こが ただなお  
古賀 忠直

（取得した資格：技術士（建設部門：土質及び基礎科目）  
資格取得年度：平成28年度）

名が進行役で経歴や倫理の質問、もう1名が専門的な内容の質問と役割分担がある）の試験となっています。4月に提出した受験経歴票の内容を確認する形で試験が進められます。試験は経歴の確認と720字以内で記述した業務内容の詳細について試験官から試問されます。時間が20分と短いことから簡潔に答えないと時間超過で不合格となります（会計検査の応答と同じように聞かれたことのみ的確に答える）。

経歴は経歴書をそのまま説明するのではなく、どのように技術者として成長したかという経歴と業務内容の詳細を3～5分程度で簡潔に説明します。業務内容の詳細は、どこが技術士として相応しいかを説明する必要があります。

また、技術士法の技術士の定義、3義務2責務、罰則規定等について質問されます。技術士倫理は最近の実例（杭基礎のデータ改ざん等）を例に倫理についての考えを求められます。

口頭試験の合格率は部門、科目にもよりますが、建設部門では口頭試験受験者の80%～90%が合格します。但し、不合格となると筆記試験を再度受験することになるため、技術士の知人に最低2～3回は模擬口頭試験をしてもらうことを勧めます。